

チーム宮古で支える部活動

～まずKadatte(カダッテ)実働チームの取組～

1 はじめに

宮古市は、岩手県の沿岸部のほぼ中央、本州最東端に位置し、三陸復興国立公園の代表的な景勝地浄土ヶ浜がある漁業と観光の町です。本市の面積は本州一の面積を有する岩手県の8.2%を占め、県内市町村の中で一番広い市です。

人口約44,000人、中学校の生徒数は約960人、広大な市域内に200人規模の学校から10数名の学校まで11校あり、中心市街地、山間部、沿岸部、中山間部に点在しています。

少子化、働き方改革の中、部活動の設置数も限られ、チームスポーツは単独校で取り組むことができず、生徒たちのニーズに応えられないのが現状です。

そこで、学校・地域・スポーツ関係団体、市等が連携して「チーム宮古」で部活動を支えながら、中学生の活動の場を確保する取り組みを始めました。

2 取組の概要

本市では、部活動の改革にあたって、国・県の方針に則りながら、子供たちが将来にわたって継続して、スポーツ・文化芸術に親しむ環境を整備するために、令和5年度から7年度まで国の委託を受け、休日の運動部活動の段階的な地域移行（展開）を目指して実証事業に取り組みました。

(1) 方針

～移行の前に支援を～

チーム宮古では「移行ありきでなく、教員の働き方改革の負担軽減でもなく、あくまでも部活動を支援し、子供の活動の場を確保する。結果として、持続可能な部活動、教員の負担軽減、休日の部活動地域移行へと緩やかに進むことをめざす。」としました。

基本方針：『支え・育てながら移行へ』

支えるために連携し合うこと

支えるは連携し合うこと

理念：未来ある子供たちのために手を取り合う

(2) 連携の具体

- ・行政と学校現場の連携
- ・行政と各競技団体の連携
- ・学校現場と各競技団体の連携

真の連携をめざし、これらの団体で**実働チームを組織し、統括コーディネーター**を配置しました。

3 実働チーム「まずKadatte」の取組

(1) 実働チームの設置

実働チーム 通称「まずKadatte」を発足

教育委員会事務局生涯学習課スポーツ振興係が中心となり、部活動地域移行推進実働チーム:通称「^{カダッテ}まずKadatte」(カダッテは方言で「一緒にやろうよ」難しいことは様々あるけれど、**まず**子供たちのために一緒にやろうよ)を組織し、学校部活動を支える活動がスタートしました。

<組織の体制：推進員6名>

〇役割分担

- ・統括：生涯学習課スポーツ振興係 副主幹

- ・ 予算、申請等：スポーツ振興係 副主幹兼係長
- ・ 学校関係調整：教育研究所 所長
- ・ 情報発信等：教育研究所 ICT支援員
- ・ 地域学校協働推進：統括的地域学校協働活動推進員
- ・ 芸術・文化団体調整：文化課文化係 係長

○協力団体等

- ・ 学校関係
 - 体育関係 地区中体連事務局長
 - 文化関係 地区中文連事務局長
- ・ 競技団体等
 - 体育関係 スポーツ協会総務係長
 - 文化関係 芸術文化協会会長

※統括・学校関係調整・情報発信・地域学校協働
推進担当に元中学校教員を配置したことで行政と学
校現場との円滑な連携が図られています。

(2) 取組の具体

①きめ細かな学校訪問

学校経営上の部活動の在り方、現状、課題等の状
況把握と情報共有

②競技団体等への協力依頼

趣旨説明と受け皿（休日の地域クラブ活動）として
の協力依頼

③休日の地域クラブ活動実施

<実施の流れ>

- ア 競技協会・スポーツ少年団等への受け皿の依頼
 - イ 合意形成が得られた競技団体が実施計画を作成
 - ウ 実施団体が休日の地域クラブ活動への参加案内
 - エ 実施団体は地域クラブ名を「Kadatte〇〇教室」として実施
- ・ 陸上競技協会主催「Kadatte 陸上教室」
 - ・ 剣道協会主催「Kadatte 剣道教室」
 - ・ 柔道協会主催「Kadatte 柔道教室」
 - ・ 野球協会主催「Kadatte 野球教室」
 - ・ ラグビー協会主催「Kadatte ラグビースクール」
 - ・ バレーボール協会主催「Kadatte バレーボール教室」
 - ・ シーカヤック協会主催「Kadatte シーカヤック自然体験」

【休日の地域クラブは大人数の活動で】



<多様な体験活動：シーカヤック>



<地域クラブと学校との連携で大会出場>

地域クラブが県中学校総合体育大会に出場!!

岩手県中学校ラグビーフットボール大会の参加条件は学校部活動であることから、ラグビースクールに在籍している生徒の中学校6校が特設ラグビー部を設置し、学校部活動の合同チームとして出場することができました。部活動の地域移行の流れとは逆行する活動でしたが、指導者のラグーマンと選手の熱い思いに学校現場が応えてくれました。基本理念の「子供たちのために手を取り合う」を実践した「**まず Kadatte**」の取り組みとなりました。チーム宮古として出場し、生徒・指導者の願いが叶った大会参加となりました。



(3) 取り組みの振り返り

改革推進期間の取り組みを振り返り、改革実行期間の推進を加速化するために実証事業に関わった、生徒・保護者・教員・指導者への悉皆（約 2,000 人）のアンケート調査を実施しました。

◎主なアンケート結果

<実証事業参加生徒>

Q 休日の地域クラブ活動参加の満足度は?

満足・やや満足約80%

<地域展開について生徒の主な意見>

- ・ 休日、平日ともに部活は地域移行しないでほしい。部活に顧問がちゃんと来てほしい。
- ・ 人数が少ないから仕方がないけど人見知りなのでなるべく移行しないでほしい。
- ・ 休日の活動は送迎で親に負担をかけてしまうので、平日のみ部活動を行う形がいいと思う。
- ・ 先生の負担を考えると移行した方がいいが、先生と生徒の交流の機会がなくなるのが課題だと思う。
- ・ 大人数で練習ができ、刺激になるので移行した方がいいと思う。

<教員のアンケート結果>

Q 部活動指導の負担感は?

負担・やや負担80%

Q 休日の地域クラブ（得意競技）に携わりたいか?

携わりたくない70%

<地域移行（展開）について教員の主な意見>

- ・ 専門外の部活動は心身ともに負担である。家族との時間を削りながら様々な対応に当たっている。
- ・ すべての部活動の地域移行は不可能だと考えている。教員がプライベートを犠牲にしてやるしか方法はないと思う。
- ・ 小規模校だと部活動の選択肢が限られるので、興味のある地域クラブ活動に所属することはとてもいいことだと思う。
- ・ 自分ができる競技であれば、積極的に関わりたい。
- ・ 部活動は教育の一部であることを考えると、教員も一緒に関わることが大切だと思う。
- ・ 地域展開は、地方と首都圏では受け皿が根本的に違う。宮古市では幸い Kadatte の事業があり、子供たちが活動できる場所が他より担保されていると感じる。

<まとめ>

○生徒のアンケート結果、意見から

実証事業に参加した生徒は、日常から部活動に積極的に参加しており、地域クラブ活動へも意欲的に取り組んでいます。平日の部活動の存続を望む声も多く、学校生活の中での部活動の存在は大きいようです。

○教員のアンケート結果から

- ・ 国の教員の働き方改革の示す通り、アンケート結果及び意見からも部活動の地域展開は急務です。
- ・ 学校経営上の学校部活動の在り方について、学校現場と行政が共に考え、生徒の活動の場の保障、確保を核とした地域展開を推進していくことが重要と思われます。

4 成果と課題

【成果】

(1) 実働チーム設置

通称「まずKadatte」を設置し、推進員を中心に組織的に活動したことにより、学校現場と地域が連携して、部活動の地域展開が緩やかに歩み出しました。

(2) 実証事業から認定地域クラブ活動が誕生!!

- ★ Kadatte 野球教室から「エンジョイベースボールクラブ (E.B.C)」
- ★ Kadatte 剣道教室から「宮古剣道少年団」
- ★ Kadatte 柔道教室から「宮古地域柔道支援部」
- ★ Kadatte 陸上教室から「Kadatte 陸上スクール」

【課題】

(1) 広い市域による活動場所の地域格差

本市は、常に移動手段が課題となります。そこで、中山間部の地域に指導者が赴く等の方策を工夫し、地域格差を生じない活動を目指しています。

(2) 指導者の確保

受け皿となる多くの競技協会が審判中心の協会であることから、指導もできる協会となるよう日々連携しながら人材バンク等を活用し指導者の確保に努めております。

5 おわりに

「まずKadatte」を設置実働チームを立ち上げ約2年間実証事業に取り組んできました。理念に掲げた「**未来ある子どもたちのために手を取り合う**」に共感した競技団体が、休日の活動の場を確保してくれました。

この取り組みが、学校、地域、行政がそれぞれの立場を尊重しながら、手を取り合って真に連携すること、その一歩になればと願っております。

どんな時代であっても地域が連携して子供を守り育てられるような普遍的な流れを「**まずKadatte**」実働チームが中心となり創り上げたいと思っております。その輪が広がり、学校部活動の地域連携と地域クラブ活動への地域展開は緩やかに進んでいくことを願って今後も取り組んでいきます。

チーム宮古の部活動地域展開ロードマップ			
			地域クラブ活動推進
			実証事業実施
			* 地域展開推進チーム
			* 地域展開活動本部
			* 認定地域クラブ活動
			令和8年度～
			令和7年度
			令和6年度
			令和5年度
部活動地域展開に向けた委員会等の組織づくりの流れ			
1 検討委員会設立	2 推進実働チーム設置	3 推進実働チーム継続	4 地域展開活動本部設置
関係団体で組織	コーディネーター配置	実証事業報告	認定地域クラブ活動推進
意見交換	方針策定・実施計画作成	地域クラブ活動との連携	学校現場との連携強化